

クラスタ環境でのデータベースのアップグレード手順

対象バージョン:SSC2.1

本手順は、クラスタ環境に構築されたSigmaSystemCenter 2.1で使用しているデータベースをSQL Server 2008、またはSQL Server 2008 R2へアップグレードする手順について記載しています。
アップグレードの対象となるのは、SQL Server 2005で作成されたDeploymentManager、SystemProvisioning、およびSystemMonitor性能監視の各インスタンスです。

本書内で、クラスタリングソフトウェアにはCLUSTERPRO X 2.1を使用して構築していることを前提として記載しています。

注:

- ・ SigmaSystemCenter のインストール時に SQL Server 2008、または SQL Server 2008 R2 のインスタンスを指定できません。SQL Server 2005 をインストールした後に本手順に従って SQL Server 2008、または SQL Server 2008 R2 にアップグレードしてください。
 - ・ SigmaSystemCenter では、64 ビットネイティブ版の SQL Server はサポートしていません。
-

関連マニュアル

本書に併せて以下のマニュアルをご使用ください。

- ◆ SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド
- ◆ SigmaSystemCenter 2.1 コンフィグレーションガイド
- ◆ SigmaSystemCenter 2.1 クラスタ構築資料 第2版
- ◆ SigmaSystemCenter 2.1 クラスタ構築手順 第1版
- ◆ CLUSTERPRO X 2.1 for Windows インストール&設定ガイド
http://www.nec.co.jp/pfsoft/clusterpro/clp/windows/document/x21_w.html
- ◆ CLUSTERPRO X 2.1 for Windows ソフトウェア構築ガイドのPPガイド
http://www.nec.co.jp/pfsoft/clusterpro/clp/windows/document/pp_x.html

クラスタ環境構成、前提条件

本手順では、クラスタ構築手順に示す通り、以下のクラスタ環境構成、前提条件でアップグレードインストールを行うものとして記載しています。

◆ クラスタ環境

現用系:1 台 / 待機系:1 台の計 2 台による「2 ノード・共有ディスクまたは、ミラーディスク・片方向スタンバイ」構成

◆ 前提条件

本手順では、CLUSTERPRO のスクリプトリソースにて、SigmaSystemCenter で使用するデータベースのアタッチ / デタッチ、およびサービスの起動 / 停止を制御するという前提で記載しています。

データベースのアタッチ、およびデタッチは以下の通りに制御されていない場合には、手順を適宜修正してください。

• 現用系サーバ

開始スクリプト:アタッチする

終了スクリプト:デタッチする

• 待機系サーバ

開始スクリプト:アタッチする

終了スクリプト:デタッチする

1. 事前準備

SQL Server 2005 に修正プログラムや最新の Service Pack が適用されていることを確認してください。Service Pack が適用されていない状態でアップグレードを実施すると、SQL Server 2008 へのアップグレードが中断されてしまい、正しく完了することができません。

SQL Server 2008、または SQL Server 2008 R2 をインストールするためには、事前に Microsoft .Net Framework 3.5 SP1、および Windows Installer 4.5 以上が必要となります。

本手順は現用系 / 待機系サーバで実施してください。インストール完了後、再起動が必要な場合には CLUSTERPRO WebManager から [リブート] を実施して、変更を反映させてください。

再起動完了後、以降の手順を実施してください。

2. フェイルオーバーグループの設定変更

現用系サーバにて、CLUSTERPRO のフェイルオーバーグループのリソースを削除します。

CLUSTERPRO WebManager を起動し、[クラスタ停止] を行います。次に、CLUSTERPRO Builder を起動し、フェイルオーバーリソースから以下のリソースを削除してください。

- ◆ スクリプトリソースを削除し、監視対象サービスを監視から外す
- ◆ レジストリ同期リソースを削除し、レジストリを同期対象から外す

リソースの削除後、Builder で [情報ファイルのアップロード] を実施し、各ノードに構成情報を反映させます。アップロード実施後、CLUSTERPRO WebManager で [クラスタ開始] を行います。

3. 現用系サーバにおけるデータベースの開始

現用系サーバにて、SQL インスタンスサービスを手動で起動します。

DeploymentManager、SystemProvisioning、および SystemMonitor 性能監視の各インスタンスはそれぞれ、既定値で「DPMDBI」、「SSCCMDB」です。

4. DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor性能監視のデータベースをアップグレードするには

現用系サーバにて、SQL Server 2008、または SQL Server 2008 R2 へのアップグレードを行います。以下の節の順番でアップグレードを実施してください。

4.1. DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor性能監視のサービスの停止

以下のサービスが停止されていることを確認してください。停止していない場合には手動で停止してください。

- ◆ DeploymentManager API Service
- ◆ DeploymentManager Backup/Restore Management
- ◆ DeploymentManager Client Management
- ◆ DeploymentManager client Start
- ◆ DeploymentManager Control Service
- ◆ DeploymentManager Get Client Information
- ◆ DeploymentManager PXE Management
- ◆ DeploymentManager PXE Mfttp
- ◆ DeploymentManager Remote Update Service
- ◆ DeploymentManager Scenario Management
- ◆ DeploymentManager Schedule Management
- ◆ DeploymentManager Transfer Management
- ◆ PVMService
- ◆ System Monitor Performance Monitoring Service

4.2. SQL Server 2008 へのアップグレードインストール

DeploymentManager、SystemProvisioning、および SystemMonitor 性能監視のインスタンス名は、既定値ではそれぞれ「DPMDBI」と「SSCCMDB」です。各インスタンスを SQL Server 2008、または SQL Server 2008 R2 へアップグレードするには以下に従って実施してください。

(SQL Server 2008 へアップグレードするには)

[http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms144267\(v=SQL.100\).aspx](http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms144267(v=SQL.100).aspx)

(SQL Server 2008 R2 へアップグレードするには)

[http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms144267\(v=SQL.105\).aspx](http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms144267(v=SQL.105).aspx)

注:

- ・ 本書では、「Standard Edition」を「Standard Edition / Enterprise Edition」と読み替えてください。
- ・ SQL Server 2008、または SQL Server 2008 R2 へアップグレードインストールを実施する前に、以下を参照して注意事項を確認してください。

＜SQL Server 2008 へのアップグレードインストールする場合＞

「12.1 SQL Server 2008 Standard Editionを使用する場合の注意事項」

＜SQL Server 2008 R2 へアップグレードインストールする場合＞

「12.2 64 ビット版OSにてSQL Server 2008 R2 を使用する場合の注意事項」

4.3. 修正プログラム、Service Packの適用

以下のいずれかの方法で、アップグレードした SQL Server インスタンスに修正プログラムや Service Pack を適用してください。

- ◆ Windows Update を実行し、対象の SQL Server インスタンスに対して適用可能なすべての修正プログラムや Service Pack を適用します。
- ◆ SQL Server の修正プログラムや Service Pack をダウンロードし、対象のインスタンスに適用します。

5. 現用系サーバにおけるデータベースの停止

現用系サーバにて、SQL インスタンスサービスを停止します。

DeploymentManager、SystemProvisioning、および SystemMonitor 性能監視の各インスタンスはそれぞれ、既定値で「DPMDBI」、「SSCCMDB」です。

6. クラスタグループのフェイルオーバー

現用系サーバから待機系サーバにフェイルオーバーします。

CLUSTERPRO WebManagerで [移動] を行うことにより、待機系サーバにフェイルオーバーを実施します。フェイルオーバー後、「4.1 DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor性能監視のサービスの停止」に記載されているサービスが停止していることを確認してください。

7. 待機系サーバにおけるデータベースの開始

待機系サーバにて、SQL インスタンスサービスを手動で起動します。

手順については、「3 現用系サーバにおけるデータベースの開始」を参照してください。

8. DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のデータベースをアップグレード するには

待機系サーバにて、SQL Server 2008、または SQL Server 2008 R2 へのアップグレードを行います。

手順については「4.2 SQL Server 2008 へのアップグレードインストール」、「4.3 修正プログラム、Service Packの適用」を参照してください。

9. 待機系におけるデータベースの停止

待機系サーバにて、SQL インスタンスサービスを停止します。

手順については、「5 現用系サーバにおけるデータベースの停止」を参照してください。

10. クラスタグループのフェイルバック

待機系サーバから現用系サーバにフェイルバックします。

CLUSTERPRO WebManager で [移動] を行うことにより、現用系サーバにフェイルバックを実施します。

11. フェイルオーバーグループの設定復旧

現用系サーバにて、CLUSTERPRO のフェイルオーバーグループのリソースを追加して設定の復旧を行います。

CLUSTERPRO WebManager を起動し、[クラスタ停止] を行います。次に、CLUSTERPRO Builder を起動し、「2 フェイルオーバーグループの設定変更」で削除したスク립トリソースとレジストリ同期リソースを追加してください。リソースの追加後、Builder で [情報ファイルのアップロード] を実施し、各ノードに構成情報を反映させます。アップロード実施後、CLUSTERPRO WebManager で [クラスタ開始] を行います。

クラスタを開始して、DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視が動作していることを確認してください。

以上で SQL Server 2008、または SQL Server 2008 R2 へのアップグレードは完了です。

12. 捕捉・注意事項

12.1. SQL Server 2008 Standard Editionを使用する場合の注意事項

SQL Server 2008 Standard Edition を使用する場合の注意事項を記載します。使用する OS により注意事項の内容が異なります。使用する OS を確認し、注意事項を参照してください。

- ◆ 32 ビット版 OS を使用する場合
「12.1.1 32 ビット版OSを使用する場合」を参照してください。
- ◆ 64 ビット版 OS を使用する場合
「12.1.2 64 ビット版OSを使用する場合」を参照してください。

12.1.1. 32 ビット版OSを使用する場合

32 ビット版 OS にて SQL Server 2005 Express Edition から SQL Server 2008 Standard Edition にアップグレードする場合、直接のアップグレードがサポートされていないので、以下の順番で SQL Server をアップグレードする必要があります。

1. SQL Server 2005 Express Edition から SQL Server 2008 Express Edition SP1 へアップグレードします。
2. SQL Server 2008 Express Edition SP1 から SQL Server 2008 Standard Edition SP1 へアップグレードします。

注: アップグレードインストールを実施する際に、以下の手順から進めてください。

「SQL Server インストール センター」画面の左ペインにある [メンテナンス] をクリックし、[エディションのアップグレード] をクリックします。

12.1.2. 64ビット版OSを使用する場合

64ビット版 OS にて SQL Server 2008 Standard Edition にアップグレードする場合、以下の点に注意してください。

＜SQL Server 2005 Express Edition からアップグレードする場合＞

SQL Server 2005 Express Edition から SQL Server 2008 Standard Edition にアップグレードする場合、直接のアップグレードがサポートされていないので、以下の順番で SQL Server をアップグレードする必要があります。

1. SQL Server 2005 Express Edition から SQL Server 2008 Express Edition SP1 へアップグレードします。

注: Microsoft SQL Server 2008 Express Edition SP1 インストーラは、Microsoft ダウンロード センターから SQLEXPRESS_86 (32ビットと64ビットの両方 (WoW) の OS へのインストールをサポートしているインストーラ) を入手してください。

2. SQL Server 2008 Express Edition SP1 から SQL Server 2008 Standard Edition SP1 へアップグレードします。

注: アップグレードインストールを実施する際に、以下の手順から進めてください。

「SQL Server インストール センター」画面の左ペインから [オプション] をクリックし、表示された画面の [プロセッサの種類:] から “x86” を選択します。その後、左ペインから [メンテナンス] をクリックし、[エディションのアップグレード] をクリックします。

＜SQL Server 2005 Standard Edition からアップグレードする場合＞

SQL Server 2005 Standard Edition から SQL Server 2008 Standard Edition にアップグレードする場合、以下の点に注意してください。

- ◆ 「SQL Server インストール センター」画面の左ペインから [オプション] をクリックし、[プロセッサの種類:] から “x86” を選択します。その後、「4.2 SQL Server 2008 へのアップグレードインストール」から入手したアップグレードインストールの手順に従って、アップグレードしてください。

12.2. 64 ビット版OSにてSQL Server 2008 R2 を使用する場合の注意事項

64 ビット版 OS にて SQL Server 2008 R2 を使用する場合の注意事項を記載します。使用する Edition によって注意事項の内容が異なります。使用する Edition を確認し、注意事項を参照してください。

- ◆ SQL Server 2008 R2 Express Edition を使用する場合
「12.2.1 SQL Server 2008 Express Editionを使用する場合」を参照してください。
- ◆ SQL Server 2008 R2 Standard Edition を使用する場合
「12.2.2 SQL Server 2008 Standard Editionを使用する場合」を参照してください。

12.2.1. SQL Server 2008 Express Editionを使用する場合

SQL Server 2008 R2 Express Edition にアップグレードする場合、以下の点に注意してください。

- ◆ Microsoft SQL Server 2008 R2 Express Edition のインストーラは、Microsoft ダウンロード センターから SQLEXPRESS_86 (32ビットと 64ビットの両方 (WoW) の OS へのインストールをサポートしている) を入手してください。
- ◆ Microsoft SQL Server 2008 R2 Express Edition のインストーラを実行する際は、コマンドプロンプトで「/X86」オプションを付けて実行してください。

12.2.2. SQL Server 2008 Standard Editionを使用する場合

SQL Server 2008 R2 Standard Edition にアップグレードする場合、以下の点に注意してください。

- ◆ 「SQL Server インストール センター」画面の左ペインから [オプション] をクリックし、[プロセッサの種類:] から “x86” を選択します。その後、「4.2 SQL Server 2008 へのアップグレードインストール」から入手したアップグレードインストールの手順に従って、アップグレードしてください。

作成日:2010/06/25
最終更新日:2010/09/13